



リスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです。」(一コリ二、二)

十字架につけられたキリストは、「ユダヤ人にはつまりませるもの、異邦人には愚かなものですが、ユダヤ人であろうがギリシヤ人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵」(一コリ一、二十三、二十四)なのだ。パウロは宣教します。

イエスは、十字架の上で「どうしてわたしを見捨てられたのですか」と父なる神に問いかけ、孤独と絶望のうちにいのちをささげました。人間の考えでは、イエスは過去の人になった、すべては終わってしまった。しかし、希望のひたすら残っていないままにその時にこそ、墓を封印していた石が転がされ、父なる神はイエスを復活させられたのです。

「わたしたちは洗礼によつてキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、

キリストが御父の栄光によつて死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。もしわたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。」

(ローマ六、四五)とパウロは、洗礼を受けた者のキリストの死と復活と一体になって生きる姿を示しています。

今年の復活祭を祝い、「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」(ルカ九、二十三)という招きに従い、日々を十字架につけられたキリストとともに歩きましょう。キリストを復活させられた父なる神の大きな力が働き、パウロのようにわたしたちを新しく生まれ変わらせてくださいますように。



ヨハネ・パウロ二世の来広記念ミサ。たくさんの会衆が見守る中、聖遺物を持って入堂する、勝谷司教とチェノットウ大司教。

### ヨハネ・パウロ二世教皇 来広三十五周年記念ミサ

二月二十一日(日)、広島教区司教座聖堂である世界平和記念聖堂で、ヨハネ・パウロ二世教皇来広三十五周年記念ミサが、ローマ教皇庁大使ジョセフ・チェノットウ大司教主司式によつてささげられました。ミサの前に、チェノットウ大司教と勝谷司教(カトリック正義と平和協議会担当司教・札幌教区司教)とに奉持された聖ヨハ

## じゃけえのう

### 「福島県南相馬市 原町ベース体験記」

私は、昨年三月に退職し、念願であった東日本被災地のボランティア活動に参加。Sr.山本の被災地報告を聞き、「まだまだこれからよ」の言葉が私の背中を押す。

南相馬への道中、まず目につくのが多くの除染作業と、汚染物質を入れた黒いフレコンバッグ。何十、何百と至る所に集積されている。これを見ただけで気が遠くなるほどの被害の甚大さを思い知らされる。このような中、原町ベースは原発近くの拠点として活動を続ける。

今年の四月からいよいよ帰還可能となる南相馬市小高町。多くの家や商店はまだ修復が進んでいない。小高のHさんは、自分たちの小高を取り戻し、新しく出発しようとする。

被災地は課題山積。ますます息の長い支援活動が大切。「今こそ明日に向けて、日本中のカトリック信者が協力し、東日本被災地への祈りと支援活動を」と声を大にして言いたい。

(福山教会信徒 伊藤 望)

懸命に努力。「花いっぱいキャンペーン」を展開し、誰もが「ふらっと」立ち寄り、アットホームになれる場「ふらっとほーむ」を開設。原発に近い富岡、請戸。富岡は整地化の真つ最中。浪江町請戸は殆ど復興の手がつけられず、海辺の請戸小学校体育館は三月の卒業式準備の飾りつけをそのまま残す。

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね」という意味。



### 溝部 脩 名誉司教 (高松司教区) 帰天

高松司教区名誉司教 フランシスコ・ザビエル溝部脩司教が、2月29日(月)午後7時過ぎに京都大学医学部附属病院にて帰天されました。享年80歳。溝部司教は、仙台教区司教、高松教区司教などを歴任。高松教区司教退任後は、京都『望洋庵』庵主に命された。

ネ・パウロ二世教皇と聖ファウステイナの聖遺物が、「いつくしみの特別聖年」の聖なる扉を通って祭壇に安置されました。

ミサ後、広島地区「平和アピール1981」記念行事として、勝谷司教による講演会「無関心に打ち勝ち平和を獲得する」(二〇一六年「世界の日」教皇メッセージ)が、広島カトリック会館多目的ホールで行われました。

その後、二人の聖人の聖遺物は、世界平和記念聖堂地下聖堂に移され、二月二十五日(木)ヨハネ・パウロ二世教皇来広記念のミサまで同所に安置され、毎日三回のミサが捧げられ、多くの人が祈りました。

二月二十二日(月)には、ローマ教皇庁大使ジョセフ・チェノットウ大司教と約三十人の司祭が「いつくしみの特別聖年・召命のために」のミサが捧げられました。

聖遺物は、二月十九日から二十六日まででは広島地区、二月二十七日から三月二日まででは岡山鳥取地区、

三月三日から八日までは山口島根地区と、広島司教区内を巡回しました。

### カリタスジャパン 四旬節黙想会

広島教区とカリタスジャパン共催の四旬節黙想会が二月二十七日(土)と二十八日(日)に、カトリック幟町教会で行われました。講話とミサをカリタスジャパン責任司教である菊地功司教(新潟教区司教)が担当してくださいました。カリタスジャパンとして、四旬節愛の献金をいづもお願ひしている関係



世界平和記念聖堂でのミサ。菊地功司教(左)と肥塚神父(右)。

で、各地で黙想会を担当することになっていったように、同じ日に名古屋教区や長崎教区でもカリタスジャパンの黙想会が行われていました。

テーマは「私たちは一つの家族、すべてのいのちのいつくしみを」。人間として生きることの本質を創世記のことばや歴代の教皇のお話などからしっかりと語ってくださいました。またフランススコ教皇が出された「ラウダト・シ」という回勅から、すべてのいのちに対する人間としてのあり方、「全人的エコロジー(Integral Ecology)」という考え方が必要であると話されました。

テーマとして取り上げられていた「すべてのいのちのいつくしみを」という言葉は、もともと「Care of Creation」(すべての創られたものを大切にすること)ということであり、黙想会を通して、この基本的な考え方がいつくしみの特別聖年の歩むために大切なことだと改めて考えることになりました。

**ユン テヨン 尹 兌榮 助祭 司祭叙階式**  
**ロイ神学生 助祭叙階式**

日 時: 4月29日(金・祝) 14時~  
 場 所: カトリック岡山教会  
 岡山市北区天神町 6-27  
 TEL 086-222-4093

司 式: 前田 万葉 大司教 (大阪大司教区)  
 受階者: パウロ 尹 兌榮 助祭  
 ペトロ ホアン・ドック・ロイ 神学生



ユン テヨン 尹 兌榮 助祭



ロイ 神学生

**津和野 乙女峠まつり**

2016年 5月3日 (祝・火)

10:30 聖母行列 (津和野教会~乙女峠)

12:00 野外ミサ (乙女峠)

司式者 浜口末男司教 (大分司教区教区長)

5月2日 (月) 分ち合い

「浦正四番崩れとドロ神父」

時間 19:00~

浜口末男司教 (大分司教区教区長)  
 肥塚偉司神父 (広島司教区)

場所 幼花園ホール

**津和野カトリック教会**

〒699-5605 島根県鹿足郡津和野町殿町  
 電話 0856-72-0251 FAX 0856-72-0282

重要文化財 世界平和記念聖堂  
「平和の灯」<sup>ともしび</sup> 記念聖堂を保存しよう!

る記念的  
建造物と  
して、さ

広島教区の司教座聖堂（カテドラル）である「世界平和記念聖堂」を未来の世代に確実に引き継いでいくために、広島教区の皆様に、聖堂保存へのご理解、ご支援を重ねてお願いいたします。いよいよ来年度（二〇一六年度）後半から耐震補強工事が始まりま

す。  
世界平和記念聖堂は、焦土とした広島の後復興を物語る建築物として、また、世界恒久平和を求め



世界平和記念聖堂内陣のモザイク、再臨のキリストの剥離調査。二〇一三年に行われた耐震調査の様子。

らには日本を代表する建築家・村野藤吾氏の戦後における代表的な建築作品として、二〇〇六年七月に国指定の重要文化財の指定を受けました。最近では、広島市民をはじめ県内外の多くの人々から高い評価を受け、聖堂に巡礼で訪れる人が増えています。教会に足を踏み入れたことのない人々に聖堂を開放し、地域の文化遺産として保存・活用していくことは、地域文化への貢献という大きな意義があります。この意味で市民や企業の方々に保存の必要性を積極的に働きかける努力も必要です。あなたが親しくしている人々に、記念聖堂の保存についてお伝えいただき、耐震補強工事への協力を訴えていただければ幸いです。聖堂建設に着手した当時（一九五二年ごろ）幟町教会の信徒が手分けして、広島市民の方々に聖堂建設のための献金を熱心に集めて廻りま

した。その際に戦争で犠牲になられた方々のお名前を申込書に記入していただきました。その台帳には約四千人もの方々の名前が記録されています。私たちの教会の先人たちの聖堂建設への思い、平和への願い、行動力を学びたいものです。

言うまでもなく記念聖堂は、地域の文化遺産である以前に、広島教区の司教座聖堂（カテドラル）です。教区のシンボルとして大切に保存・活用して行くことが求められます。司教座聖堂とは、教区の教区長（司教）が教区内の信徒を教導し、司式するための「着座椅子（カテドラ）」が置かれた聖堂のことです。その意味で教区を中心とする聖堂です。広島教区では、「平和の使徒となろう」をテーマに各種の召命・宣教活動に取り組んで来ています。原子爆弾による悲惨な戦争体験をもつ教区として、将来にわたって継承して行かなければならない教区の固有で不変のテーマです。記念聖堂はそれらを証

世界平和記念聖堂募金  
郵便振替口座

口座名：カトリック広島司教区  
口座番号：01320-3-109791  
\*通信欄に「聖堂保存献金」と記入してください。

する聖堂でもあり、私たちが平和の使徒となるためにも保存・活用することが望まれます。聖堂建設に取り組みました多くの先人たちの信仰や活動に倣い、「平和の灯」<sup>ともしび</sup>を絶やすことのないよう、思いを新たに、次の世代に記念聖堂を引き継いで行きたいものです。重ねて、ご協力をお願いいたします。

司祭・修道者のダイヤ  
モンド・金・銀祝

◆ダイヤモンド祝60周年◆

《援助修道会》おおぞ共同体

Sr.下條裕紀媛 一九五六年

二月二日 初詣願

《援助マリア修道会》

福山修道院

Sr.入川由紀子 一九五六年  
五月一日 入会

Sr.清川恵美子 一九五六年  
八月十四日 入会

Sr.梶 幸子 一九五六年  
十月七日 入会

《援助マリア修道会》

長府修道院

Sr.浜野ノブ子 一九五六年  
二月二日 入会

《ナミュール・ノートルダム

修道女会》東広島修道院

Sr.井上満洲子 一九五六年  
二月二日 入会

◆金祝50周年◆

《教区司祭》幟町教会

Fr.豊田尚臣 一九六六年  
四月十七日 叙階

《イエズス会》長束修道院

Fr.岡 俊郎 一九六六年  
三月十八日 叙階

《援助修道会》楠木修道院

Sr.倉地節子 一九六六年  
二月二日 初詣願

Sr.山路雅子 一九六六年  
五月十九日 初詣願

◆銀祝25周年◆

《ミラノ外国宣教会》三原教会

Fr.アルナルド・ネグリ  
一九九一年 六月八日 叙階

《純心聖母会》小野田修道院

Sr.糸永小夜子 一九九一年  
十一月四日 初詣願

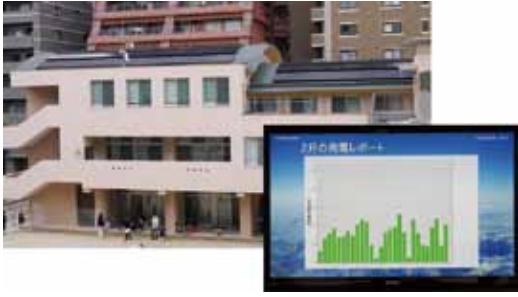
《援助修道会》幟町修道院

Sr.山本紀久代 一九九一年  
十二月八日 初詣願

ラサール記念館  
ソーラーシステム完成

昨年十二月二十八日、環境問題への取り組みの一環として、ラサール記念館の屋根に太陽光発電施設が完成しました。

太陽光発電の総出力は10.75kW、発電した電力は1kWh当たり約三八円です。総工費の約四百七十万円は、全額広島司教区司祭の積立金で賄われ、教区司祭団から広島司教区へ寄付されました。売電収入は年間約四十五万円(予定)、すべて世界平和記念聖堂の補修基金に拠出される予定です。



左、ラサール記念館の屋根に黒い太陽光パネルが見える。右、発電の様子を伝えるディスプレイ(ラサール記念館入口)。

予備神学校  
二〇一六年度予定

二〇一六年度の予備神学校日程、ワークショップのテーマをご案内いたします。参加対象は小学五年生から高校三年生です。たくさんの方の友達と信仰の共有ができる機会です。みなさんの参加をお待ちしています。

期間とテーマは次の通りです。

\*第九回 四月二十三～二十四日  
場所：幟町教会

①復活されたイエス

②聖なる月のお話し 五月聖母月

\*第十回 六月十八～十九日  
場所：幟町教会

①五千人に食べさせた奇跡

②ダビデとゴリアテ

\*第十一回 九月十八～十九日  
場所：倉敷教会

①主の祈り

②イエスさまとザアカイ

\*第十二回 十一月二十六～二十七日  
場所：幟町教会

①救い主をまつイスラエルの民

②クリスマスのお話し

\*第十三回 二月十八～十九日  
場所：幟町教会

①人間が罪をおかしました

②エルサレム入場と十字架の道行

申込先：予備神学校事務局

住所：〒730-0016 広島市中区幟町四一四二 広島司教館

ファックス：082-221-6019

J-CaRM広島便り

出雲・米子・松江教会のフィリピン共同体による『島根県、第一回聖体研修とサントニーニョフェスティバル』

Sr. マリアニータ・テニヨツ

一月三十一日の日曜日、松江は、雨と雪だったその前の週の日曜日と違って、お天気に恵まれました。

出雲・米子・松江のフィリピンコミュニティの皆さんは島根県の松江教会で初めて開かれる聖体研修とサントニーニョ祭のために熱心に祈りました。すると、何とということでしょう、嬉しいことに神様は祈りに答えて、太陽が輝く素晴らしい日曜

日にしてくださいました。私たちが住んでいるこの山陰で、初めての大きな教会行事を

実行するために、出雲・米子・松江の三つのフィリピンコミュニティが協力することで、一つになることができました。この大成功は、大阪からのSr.クレイルジョセフ・パルトオブの二回の講話に七十二名ものフィリピン人が参加してくれたことにもよります。

午前中のお話は「御聖体のイエス」でした。御聖体にあるイエス様の四つの存在について、とてもよく説明してくださいました。フィリピンスタイルの昼食後の第二講話は「サントニーニョとフィリピン人」です。これを二〇二一年に開かれる、フィリピンの五百年にわたるキリスト教信仰の祝賀式典に結び付けて話されました。

十五分間の聖体礼拝の時間をもち、続いて米子カトリック教会主任司祭、荻神父様による英語のごミサです。倉吉からはオーストラリアやケニアの友人を誘ってきてくれました。ごミサには日本人も含め、さらに多くの人が集い、子どもの数



松江教会の祭壇前で

だけでも約百人にもなりました。ごミサの後はサントニーニョフェスティバルです。出雲・米子・松江それぞれのコミュニティごとに、幼子イエス様様の栄光をたたえる伝統的ダンスを披露しました。

グループはそれぞれカラフルでキラキラした衣装をまとい、シノログのリズミカルな音楽に乗って美しく踊りました。フィリピン古来の舞踊と宗教的な情熱は、見る人に畏敬と称賛を与えました。シノログダンスの素晴らしいパフォーマンスを目の当たりにし、皆から温かい拍手が湧き上がりました。

この催しは信仰の分かち合いと、互いに兄弟姉妹として繋がる特別な体験でした。そしてこれを毎年続けたいという思いになり、来年は出雲のフィリピンコミュニティがこの催しのホストを喜んで引き受けて下さいました。

「ご聖体のイエス」についてもたくさん学ぶことができました。ごミサではイエス様の愛を称え、シノログダンスを通してイエス様を崇めた一月三十一日は、記念すべき特別な「ビューティフルサンデー」となりました。

地区便り

山口島根地区

＊平和アビール1981の集



ライブで熱唱するSr.山本

い

〈内容〉神の恵みと私たちの信仰生活

い ＊山口・島根地区少年の集

五月二日(月)～三日(火)に、徳佐から津和野に向けて夜間巡礼を行い、三日の「津和野乙女峠まつり」に参加。対象は小学四年～高校三年まで。

八月五日(金)～八日(月)に、中・高校生の日韓青少年のホームステイ交流が行われる。

岡山鳥取地区

＊第三回地区宣教司牧評議会

一月十一日、岡山教会にて開催。議事に加えて、「いつくしみ深く御父のよ

うに・七つの慈善のわざに取り組むために」をテーマに分かち合いを持った。

＊J-CARM 大阪教会管区セ

ミナー

二月十一日(木・祝)、



教会ホールがたくさんの人で埋め尽くされた

岡山教会を会場に管区セミナーが開かれた。テーマは「隣のベトナム人と私たち」。聖堂で四力国語の国際ミサのあと場所をホールに移し、トゥアン神父、留学生ハインさん、特定社会保険労務士小松公寛さんの話を聞いた。

ベトナムでは人口の約十パーセントがカトリックであること、禁教の時代があり多くの殉教者が出たこと、現在も地域によっては弾圧があることなどを学んだ。

ハインさんからは、きれいな日本語で、来日半年で教会を見つけ安心したことで、留学生や研修生の経済状態のことなどの話があった。

海峡からの風 40

下関労働教育センターだよ

●昨年の十月から始まった下関労働教育センターの改修事も進み、四月十日にリニューアルオープンセレモニーを開催する運びとなりました。●二月初旬には、センターの理念をシンボライズした十字架の設計も完了しました。●センターのシンボルをぜひエントンス正面に掲げたいと思

待っていました。●堅く握手された手で構成された十字架。これこそセンターの理念。なかなかよいデザインが思いつかず、さて、どうしたものかと考えていた最中に、ミラノの田舎で「これで、どうか?」とイエズスから示された十字架。●イタリアの旅は、このためだったのだろうか、いまだに思えてなりません。●レプリカを購入して帰国。その十字架を元に、知人で、東京在住の彫刻家に「現代的なフォルムで」と注文し、大理石での制作を依頼しました。壁面が完成していませんが、写真を掲載いたします。●リニューアルオープンしたセンターの、この十字架に、ぜひ会いにおいでください。(廣崎リュウ)



小松さんは、技能実習生が抱えている複雑な問題を話され、支援にはネットワークが必要と強調された。また「教会に來ている人は問題ない。來ていない人が心配です。」との言葉も残された。参加者約九十名。すでに隣人となつていくベトナムへの理解を深めた。

**広島地区**

**\*「信徒のための」『靈操』セミナー**

第五回・四月二十三日  
(土) 十時〜十六時  
第六回・七月二十三日  
(土) 十時〜十六時  
第七回・十月十五日(土)  
十時〜十六時

指導：塩谷恵策神父  
イエズス会・西日本靈性センター(代表)  
場 所：観音町教会

**\*平和を祈るテゼの集い**

テゼは「黙想と祈りの集い」と呼ばれ、エキュメニカルな(教派をこえた)祈りと賛美の場として、全ての人に開かれています。

・四月二十一日(木)  
十時半〜 ルーテル広島教会

十八時〜 世界平和記念聖堂  
・九月二十二日(木)  
十時〜 祇園教会

**\*第三十三回「広島キリシタン殉教者祈年祭」開催。**

本年度で三十三回目を迎えた「広島キリシタン殉教者祈年祭」が二月十一日(木・祝)に、行われました。

当日は九時三十分から、広島近郊の各小教区より信徒・修道者約八十名が参列、己斐のノートルダム清心中・高等学校入口に建立されている「キリシタン殉教之碑」前で、感謝の祈りと歌を奉げました。

その後、約十五分の観音町教会まで徒歩で巡礼。十時十五分から観音町教会で、約百名が参列し、司祭六名、ヴィタリ神父の主司式で「広島キリシタン殉教者祈念ミサ」がともに捧げられました。

また、祭壇の前には、広島島の三人の福者(フランシスコ遠山甚太郎、マチアス庄原市左衛門、ヨアキム九郎右衛門)の切り絵と列福の礎を築かれた、H・チー スリク神父の遺影を掲示し

ました。

ミサ後の講話で、ヴィタリ神父は、古代教会における殉教者の墓の由来から殉教者と聖人について種々お話しされ、私達はイエス様において一つの家族であり、殉教者と聖人は現代に生きる私達の恩人ですと時折ユーモアを交えて話されました。そして、福音宣教の大切さを私達は殉教者の生き様を通して、しっかりと学ばねばなりませんと結ばれました。

ミサと講話の後、会場をヨゼフ館(信徒会館)一階に移し、観音町教会マリア会の皆様の美味しい手造り軽食を頂きながら楽しく分かち合いをし、午後十二時三十分終了しました。



「キリシタン殉教之碑」前で

**広島教区の施設** (29)  
シリーズ 巡回教会めぐり  
**岡山小教区 ロザリオ教会**

岡山県東部の瀬戸内海に浮かぶ長島の国立ハンセン病施設・愛生園内の教会です。当初一九三〇年代の信徒は五〜六名いたようですが、曙教会の委託信徒の立場で、プロテスタントと一緒に、単独の集会は出来ませんでした。

その後三四年頃から、岡山のイエズス会の神父の月一回訪問が始まりました。聖堂が無く砂浜や面会室等で集会をしていたようです。信徒も徐々に増え宗教団体として愛生園から公認され、五一年に信徒四十三名で独立を果たすことができ、岡山教会の巡回教会となりました。

この年淳心会に司牧移管し、シブス神父が訪問されるようになり、仮祭壇の前で不自由な体で真剣に祈っている姿を見て、聖堂建設の決心をされました。母国ベルギーの方の支援と信徒の祈りで、五三年九月二十日聖母マリアに捧げられた聖堂の献堂式が荻原晃教区長の司式で行われました。

当時の信徒会長は、この時の神父の意気込みを「私はこの為に一生懸命乞食を致しませう。恥ずかしいとは思いません」

と書き残しています。この愛情溢れる言葉に、皆勇氣と希望をもらったようです。

喜びの新聖堂では毎週日曜日に集い祈り、信徒の繋がりも深まりました。また、五七年から、視覚障がい者五名で五傷会(キリストの五つの傷)を作り、点字で舌読で学び合いました。七四年迄続いたようです。

一九八八年には念願の人間回復の橋「邑久長島大橋」が架かり、現在はロザリオ教会まで自由に行き来できます。

一九五三年の献堂以来岡山の信徒が六十三年間月二回訪問し、一緒にミサに与かり交流していましたが、信徒も二名となり四月からはミサは月一回となりました。



第二・四水曜日、十時〜十六時まで開いています。教会スタンプリーの方もどうぞ。

### ネットワークミーティング ー 四国

「めぐる」と聞いて、あなたはどんなイメージがありますか？

二月二十七日～二十八日に愛媛県松山市の聖カタリナ学園セミナーハウスで



「神と語るためには」

カトリック徳山教会

高橋 義博 神父

皆さん、聖マリア・ヴィアンネのことをご存じでしょう。この聖人は私の尊敬する聖人たちの一人です。大分前のことですが、この聖人の伝記を読んで大変深い感銘を受けた記憶があります。当時のことを思い出してこの拙稿を綴ってみようと思いません。

聖人は神学校でラテン語に大変苦労なさったようです。聖人を神学校に入れた司教様もそのことを大変心配なさったよう

『ネットワークミーティンググイン四国 めぐるー人生という巡礼の旅』が行われました。受付で「初」と書かれた名札をもらった私は、ドキドキしながら人の群れの中を通り抜けると、一人の女の子が声をかけてくれました。それが、この

二日間で私が初めて感じた「めぐる」でした。今回のネットワークミーティングは、この「めぐる」にちなんだ企画が盛りだくさんでした。分かち合い、テゼ、8.8ヶ所めぐり、そしてミサ。人にはそれぞれ「めぐる」のイメージが

あり、私にとって新しい発見もたくさんありました。そしてなにより、「おせっかい」というおもてなしの心がいつもどこからか私には感じられました。もちろん、かつおのたたき、讃岐うどんなど四国の美味しいおもてなしも嬉し

らく彼をじっと見ていました。彼は十字架上のイエスを眺めながら、イエスと話をしているものと思えました。しかしよく見るとそうではなく、ただじいっとイエス様を見ているのです。長い時間が過ぎていきました。

す。当時、司祭になるためにはラテン語が必須だったからです。今から数十年前まで、教会用語はラテン語でした。この記事を書いている私も司祭になるために必要な哲学および神学をラテン語で学ばなければなりませんでしたが・・・。

さて、神学のコースを終えて司祭に叙階されたヴィアンネ神父はリオンの北に位置するアルスという寒村の教会に送られました。そこで司祭生活を始めたのです。

ある日のことでした。いつものように彼が祈るために聖堂に行くとき、一人の農民のおじいさんが祈禱台に跪いて祈っているではありませんか。聖人はしば

との語らいであるとするれば、どうしても先方にも耳を傾けなければならぬでしょう。一方的にこちらの言い分、あるいは注文だけを言って、後は「おしまい」では神と語り合うことにはならないでしょう。

どうも私個人の体験でもこのような一方通行的な祈りになりがちであったようです。反省するところは大きい。「祈り」とは、こちらから頻りに何でも神に願うことではなく、先ず何よりも神に耳を傾けること、神が私に何を求めておられるかを知ることではないでしょうか。

考えてみると簡単なように思われますが、実際には根気の要ることで、言うには易しいが実行するには忍耐の要ることであります。聖人はこのことに大いに感心されたようですが、この辺に祈りの「極意」、あるいは「醍醐味」があるのではないだろうかと考える今日この頃です。

かったのですが…(笑)それ以上に、青年スタッフだけでなく地域の方々も一緒にあって迎えてくださったことで、とても温かい気持ちになりました。

初参加のネットワークミーティングで、多くの活気あふれる青年たちにめぐり合わせてくれた神さまに感謝。お遍路さんのように、人生の山あり谷ありも乗り越えていきたいと思えました。いや、きっと神さまと一緒に乗り越えられる！

最後に、高松教区のスタッフの皆さんありがとうございました。本当にお疲れ様でした。

(青少年情報センター 石井)



広島教区長空位の状態のまま、また、新たな年度が始まります。

ご復活の喜びの次は、一日も早い新司教の誕生の朗報と、一日も早い世界平和の実現のために祈りたい。

